

その尿異常
変化していませんか？内科
藤原 木綿子日本内科学会認定医
日本腎臓学会専門医

「前から健診で尿異常をいわれている毎回のことから…」

それに血液検査は指摘されたことがないし大丈夫でしょう」

こんなケースはよくあります。ではどこまで様子をみてよいのでしょうか。腎臓のサインは尿にでています。

尿異常だけでなく血液検査に異常が出るとき急性(短い期間で腎障害になったケース)では回復可能な場合がありますが、慢性(長い年月かけて完成する腎障害)ではもう病気が進んでいることが多いです。

慢性経過の場合、血液検査で腎障害を指摘されるころには治療できる

時期がすぎ、腎臓は小さく変化、慢性腎不全管理や将来の透析のことを考えていく時期となっており、まして症状がでている人は腎障害末期のことが多いのです。

腎不全はいろいろな原因でなります。糖尿病・高血圧・高尿酸血症・尿路異常・そして腎炎。

今までの経過や他の病気、現在の状況、画像、あわせて何が原因か調べますが、まず医療機関を受診しなければすべては始まりません。

腎臓内科の受診のめやすは尿所見が大事です

- ① 尿蛋白30以上(尿潜血問わず)
- ② 尿蛋白が目立たなくても尿潜血が2+3と強陽性
- ③ ポイントでみると顕著ではなくても、尿の結果が 去年・おとしと比べると悪くなっている

担当の先生や腎臓内科へご相談ください

腎臓内科ではそういったケースを総合的に判断し、腎炎が疑わしい(積極

的治療が必要)と判断した場合、腎生検を勧めています。

腎生検

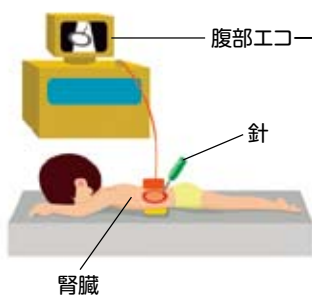
局所麻酔で腎臓の組織を一部(何万个の組織のうち、数個から数十個)針でとってきて、顕微鏡で評価します。

腎生検のデメリットは針を刺すことによる出血です。当院では検査・安静のため4日間入院していただいております。

その後、大阪市立大学腎臓内科と連携して判断・治療をしていきます

まずは尿所見を見直してください。その尿異常はどんな派手になっていますか？

(+が増えていませんか)
*尿蛋白・尿潜血は1が正常です。



実際は衣類をつけています

言語聴覚室のご案内

当院では、言語聴覚士が「ことばや記憶などのコミュニケーションに障害のある方、あるいは、摂食・嚥下機能に問題のある方」に対して、検査・評価・訓練・相談などの援助とQOL（生活の質）の向上や社会参加のための支援を行っています。また、ご家族や周囲の方々に対しても、相談や助言など適切なサービスを提供します。

コミュニケーション障害とは

- ①失語症 脳卒中や頭部外傷によって、ことばが出てこない、聴いたり読んだりしたことの意味がわからないという状態です。
- ②構音障害 発音が違う、ハッキリしない、なめらかに話せないなど、言葉が不明瞭な状態です。
- ③音声障害 声が小さくなったり、かすれたり、がらがらになったりという声の障害です。
- ④その他 記憶障害 注意障害 認知症など。

以上の障害を専門的に判断し、適切な訓練材料や機械を使って訓練します。

しかし、外から動かして無理に話をさせていただくことはできません。言語訓練はご本人が訓練の必要性を感じて積極的になってはじめて効果が出ます。心理的・環境的・社会的な条件も総合的に判断して、言語生活・通じる楽しさを再獲得していただくよう訓練を進めています。

摂食・嚥下障害とは

食べ物や飲み物がうまく飲み込めなくなり、食道ではなく肺のほうへ行ってしまう「誤嚥」などを起こすことです。その結果、栄養障害を起こしたり、肺炎にかかってしまうことがあります。脳卒中による場合がほとんどですが、加齢にともなう嚥下障害も少なくありません。

疑う症状として

- ・食事中にムセやセキがある
- ・なかなか飲み込めない
- ・口からこぼしてしまうことが多い
- ・お茶などの水分を飲まなくなる
- ・濁った痰が出ることもある、など

※以上のような症状がある方は、早めの専門的対応が必要です。

また、お年寄りの肺炎の約半数は不顕性誤嚥が原因と言われています。

不顕性誤嚥とは、唾液や逆流した胃液を夜間気づかぬうちに少量ずつ誤嚥することです。

食事中にムセがないため気づかれぬことが多く、不顕性誤嚥を繰り返すと、肺炎を何度も起こすこととなります。

当院では、必要な方に嚥下造影検査（レントゲンの透視検査）を実施し、食べ物や飲み物が気管に入っていないかどうか、安全に飲み込みができるかどうかを評価し、効果的なりハビリテーションを行うことができます。

「食べる・飲む」という行為は、ふだん何気なく行っていますが、それができなくなると、生きていく上で必要な栄養分を摂れなくなることはもちろん、食べる楽しみを失ってしまいます。安全に、できる限り口から少量ずつでも食べていけるよう、専門的対応と食べるためのリハビリを提供します。

気になる方は、医師または言語聴覚士にご相談ください。



フットケア外来のご案内

足がしびれる、足が冷たい、足の色が悪い、巻き爪や爪が厚く切れない、たこがあるなどの症状で悩んでいませんか？

糖尿病の合併症の神経障害（足のしびれや感覚が鈍いなど）が進行すると、傷があっても気づくことが遅れ、足を失うこともあります。

フットケア外来では、経験を積んだ看護師が足の観察や神経障害・血流障害の程度をチェックして、足のお手入れ（フットケア）をお手伝いさせていただきます。

いつまでも、自分の足で歩くために、あなたの大切な足を見てください。

★お問い合わせについては、外来看護師がご相談に応じます。

日時：毎週木曜日
時間：14:00～17:00（予約制）
所要時間：45分

初めての患者様は、問診と足の状態の検査のため90分程かかります

場所：1階内科外来 3診察室

内容：足浴、足の観察、簡易検査による足の状態を検査
足の観察とスキンケア、爪の切り方、靴、靴下の選択方法などの指導

糖尿病の療養に関する相談

足の状態に応じて、爪切り・角質の処置など

受診方法：主治医へご相談ください

医師の診察後、フットケア外来で処置を行います



私たちの理念

私たちは一人ひとりの生活を大切にします。

- 私たちは **お客さま本位の医療** を提供します。
- 私たちは **腎医療の専門領域** を確立していきます。
- 私たちは **働き甲斐のある職場** づくりを目指します。
- 私たちは **地域住民の健康生活** に奉仕します。

医療法人 蒼龍会 井上病院

医療法人 蒼龍会

井上病院

〒564-0053

大阪府吹田市江の木町16番17号

TEL 06-6385-8651 FAX 06-6386-1131

http://www.soryu.jp

お客さまへの約束

私たちは

- 適切な医療を提供いたします。
 - 治療に対して十分な説明を行い、ご自身の選択に基づく医療を進めます。
 - 必要なときはいつでも診療情報をお伝えします。
 - プライバシーを尊重することを約束いたします。
 - より良い医療が行われるよう、常に研鑽いたします。
- 病院は療養の場です。
病院の規則を守るなど、皆さまのご協力をお願いいたします。

医療法人 蒼龍会 井上病院